

友 和

NO.579

発行日 令和 7 年 7 月 1 日

発行 社会福祉法人 友和の里

〒 738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuuanosato.com/>

発行者 理事長 河野義刀



6/13 広島県アートサポートセンターからの紹介で、くうさん（玖島 雅子先生）をお招きしてアート活動を行いました。アート活動は描画など机上での創作活動を通行していますが、今回はカラダを動かして身体運動に挑戦しました。この活動は私たちも初体験！どんな内容になるのか？参加する利用者さんは楽しめるのだろうか？身体表現ってどんな感じで表現するのだろうか？など当日まで不安でした。しかし、始まってみると、そんな不安も吹き飛んでしまいました。最初に一人一人

の名前を全員で呼んでいくアイスブレイクから始まり、

その後は電車になってトンネルを通過したり、少しずつ音楽に合わせてカラダを動かしていきました。職員も一緒に利用者さんと参加しました。最初は緊張していた参加者も少しずつほぐれていき、笑顔が出てきました。なかには積極的に参加するより様子をじーっと見ているのが好きな利用者さん

もいました。最後はクールダウン！スカーフの上で横

になってひと時を過ごして終了しました。あっという間の1時間でしたが、利用者さんのいろんな表情や動きを見ることができ、よい経験となりました。私自身も楽しい1時間でした。くうさん楽しいプログラムありがとうございました。（主任 甲斐 真由美）



第42回さいきアーチェリー大会

宇吹伸二さん^{うすいしんじ}と田中陽介さん^{たなかようすけ}が出場しました。これまでの倍の10メートルの的をねらいます。二人とも緊張していつもの体勢がとれません。様子を見に来ていた職員^{みやくま}の三宅将さん^{みやけまさる}。宇吹さんには「身体^{からだ}のぶれをなくしんさい。姿勢^{しせい}。動か^{うご}かんのが大事^{だいじ}じゃね」、田中さんには「手^ての位置^{いち}の修正^{しゆせい}、引いた手^てをあごにあてて、矢^やをまっすぐにす」と声をかけていました。緊張する競技会に慣れた職員がいてくれると安心できる反面、うるさくないかなあと思って三宅さんに質問をしました。すると「指示をされて修正できるのが宇吹さんと田中陽介さん。日頃かかわっている人からの声掛けなら受け入れられるのだと思う。」と返答がえってきました。

見学に来ていた宇吹さんのお母さん。「(伸二さん) 本人は感情表現の分かりにくい、表現しにくいタイプなんです」「貝通し作業は任されているので好きなんです、火曜日は貝通しの納品へは行かずアーチェリーの練習に行きたいと自分の思いを言いました。それくらいアーチェリーは気に入っているようです」と話をしてくれました。

3年前に入職した三宅さん。初めての開所日のレクリエーションの時に「楽しいことってなに?」と利用者にきいたら、「友和の里内にある自動販売機で好きなものを選んで買うのが楽しみだ」と聞き、他にもあるだろうと思った。そこで自分の友和の里での目標は『利用者さんの楽しみを増やそう』に決めたそうです。

アーチェリー大会に出場した宇吹伸二さんと田中陽介さん、二人の姿は一般の競技を楽しむ参加者として私に見えました。以前紹介したことがある矢とりの場面では、誰の介助を受けることなくスムーズに矢のとりはずしをしていました。三宅さんの初心の思いは着々と実現されており、本人、家族も楽しめる活動になってきているなと感じました。

(地域交流支援 ヒューガノリコ)



競技中のようす

【ご家族イン タビユー】

①アーチェリーをやってみようと思った理由

スポーツをする機会が少なく運動不足ぎみだった。

体力向上にもなるし、面白そうだと思いました。チームスポーツ

は苦手で、一人でできるのもいいなと思いました。フリスビーが好きなのではまってくれるかも!?と期待しました。

②アーチェリーを続けてみて感じていることや陽介さんの様子

生活の中の様々なことに対して、なーんともなく自信を持って取り組めるようになった気がします。「これやるん!」と誇らしげに弓をかまえる格好をしてくれます。今度のアーチェリーの日を聞くと「〇日!!」と即答します。

③これから

アーチェリーはこれからも続けて仲間やいろいろな人とつながりながら、心豊かに楽しい生活を送ってほしいです。

田中弥生^{たなかようすけ}(田中陽介さん母)





矢とりをしている伸二さんと陽介さん



ハイタッチをする村松さんと平野祐樹さん

佐伯国際アーチェリーランドスタッフの平野祐樹さんに
ひらの ゆうき

さきました

友和の里がくるようになって

初回は10名ずつでした。職員から大変ですよーと脅されていた。ドキドキしながら対応した。とりあえず弓を持って矢を打ってもらった。すると「なんてことさせるんだ」という反応。弓をひくことや弓のはじけた反動など、すべてが初体験。そこに不安や怖さ、不快もあったと思う。そんな風にはじめて、回数を重ねていった。しばらくして場所に慣れてもらいこの場所がわかってからがスタート。私たちスタッフが敵でないことがわかって、感覚的にすりあってくると安心してくる。安心できると自然とアーチェリーの動作もスムーズになっていった。「ああこの人たちって運動が足りてなかったんだな」「もっと早く出会っていたらよかったな」と思った。

僕らが楽しいことは彼らもたのしい

できるようになったら楽しい。的に当たると嬉しいし、黄色に入るようになったらもっとうれしい。初回は目をあわせてもくれなかった村松さん。今やばっちり目を合わせてくれる関係になった。初めて最初の1本打ち終わった後の、さっさと席に戻った村松さんをよく覚えてい。彼らにも承認欲求あるし、できた時の自己肯定感もちゃんともってる。

結果がすぐにわかるスポーツは、感情の共有がしやすいと思っっている。続けていると「ナニ色ニアタッタ？」と本人から聞いてくれるようになるし、的にあたったことをハイタッチして一緒に喜べる。そして何より**ぼく**も**楽しいから彼らもたのしい**ということを大事にしている。

アーチェリーは楽しい

回数が増えてくるにつれてだんだんに彼らの表情が明るくなっている。カラダを動かすって気持ちがいい。そして、今から何をするのか分かってると言葉も入りやすくなる。「座って待とうね」「僕たちと一緒に打とうね」という声かけも、もうすっかり分かってきている。難しいことはしていない。なるべく簡潔に分かりやすく、道具に直接さわってもらいながら伝えている。教えているというより、伝えるという行為になるかもしれない。これからも友和の里からアーチェリーランドへ継続的に来てもらって、アーチェリーをもっと楽しんでもらいたい。

話を聞きながら、平野さんの口調はとっても穏やかで聞きやすく、温かみを感じました。



作業している山根慶一さん



★ Partition

とうげいはん 陶芸班

引き続きゴム入れ作業と干支の型流しを頑張っています。干支の素焼きもたくさん仕上がりました。陶芸班の皆さんと何色にしようかと話し合い決めていこうと思います。

(生活支援員 朝川 泰貴)

そうさくはん 創作班

山根さんは、作業中室内の周囲をよく観察され、人の出入りがあればすぐにドアを開け迎えてくださり、室内にゴミが散乱していたら、誰よりも早くゴミを拾い、皆さんが作業しやすい環境を常に心がけてくれています。また、ニコニコ笑顔がとても素敵で創作室を癒しの空気で包んでくれています。5月は山根さんの誕生日でした。通所部ホールでお祝いさせていただきましたが、とても良い表情をされ喜んでおられ職員一同も幸せな気分になりました。今回は、気づきと癒しの達人、山根慶一さんを紹介しました。また次回をお楽しみに！！

(主任生活支援員 山田 憲志)

かいとおはん 貝通し班

6月から納品が始まりました。貝通し班の皆さんがコツコツと作り上げた採苗器が、順調に各業者に納品されています。梅雨時期に入り、ジメジメとした日が続いていますが皆さんペース良く作業に取り組まれています。このペースを維持し、過ごしやすい環境で活動できるよう空調管理や体調確認をこまめにしていきます。

(生活支援員 冠 茜)

りょういくはん 療育班

作業室1ではパーテーションを設置して作業をしてもらっています。作業中に周囲の人の動きが気になってしまうと、作業への集中が妨げられることがあるからです。パーテーションを設置してからは集中して作業に取り組む姿が多く見られるようになりました。今後も利用者一人ひとりにとって快適で安心できる作業環境を整えていきます。(生活支援員 濱田 吉弘)

研修報告

令和7年5月11日に強度行動障害支援者研修会(基礎研修)を受講しました。強度行動障害の状態とは、生活上においてご自身での判断が難しく、特別に配慮された支援が必要とされている状態の方のことです。例えば「暑い」「寒い」「お腹が空いた」「外で歩きたい」といった自己表現を上手く伝えることが困難で、理解してほしい思いから自身の体を傷つける行為や、物を壊してしまう行動に出ることがみられます。そのように、強度行動障害の状態でご困っている方がその人らしく地域で過ごすことができることを目的とした研修を受講し、ご本人が安心して生活を送れるための支援手順書の理解を深めました。(支援手順書とは、ご本人さんのペースで無理なく一日のスケジュールを行えることが出来るものです)ご本人やご家族にとって少しでも安心して生活できる環境を提供出来たらと思っています。



すべての環境を整えることは叶わないかもしれませんが、友和の里でもなるべくその人らしく過ごせるよう支援を行っていききたいと思います。

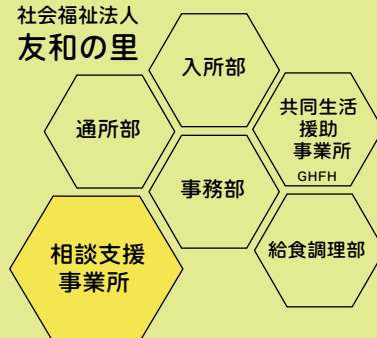
(主任生活支援員 山田 憲志)

社会福祉法人 友和の里

をご紹介します

相談支援専門員として勤務している三村明美^{みむらあけみ}さんに相談支援やその専門業務について聞きました。事業所はコミュニティーハウス内にあり、三村さんは電話とパソコンを駆使して日々業務に奮闘されています。

社会福祉法人
友和の里



①相談支援^{そうだんしえん}とは

相談支援にはさまざまな種類がありますが、友和の里では福祉サービスを利用するための「計画相談支援」を提供しています。必要に応じて病院や専門機関との連携を行います。

②どんな人^{りょう}が利用していますか

利用者の半数が友和の里の利用者で、外部の方が半数います。5歳から77歳までの方を支援しています。地域は安芸郡府中町から岩国市まで広範囲です。

④三村さんの悩み

小さいので覚えてもらいにくいのが悩み。インパクトをつけるために、名刺に工夫をこらしています。若かりし頃の三村さんがみたい人は、名刺のおねだりをしてください。

③相談支援専門員^{そうだんしえんせんもんいん}さんの三村さんについて

7年間パートで直接支援の仕事をしていました。子育て真っ盛りの最中でしたが、支援の工夫で関わっていた方の行動が変わることを知って、対人援助の面白さを知りました。働きながら資格を取得し、3年前から相談支援専門員として働いています。資格取得の勉強中に、対人援助の基本を繰り返し学べたこと、今の法律の中でみなさんが福祉サービスを利用している結びつきなどが分かりました。



通所ホールで朝の挨拶をかわす三村さん（右側）と田中浩二^{たなかこうじ}さん

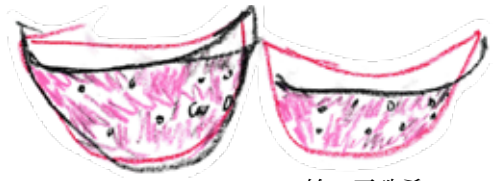
⑤^{ばんそうしゃ}伴走者をめざして

相談支援を利用されているお母さんに相談することがあります。障害のある子どもさんを育てることが一番の経験。お母さんの話をきくことで、その考え方やつながり方など学ぶことが多いです。利用者そしてその家族と一緒に成長をしていきたい。『時には私が引っ張って、また時には引っ張ってもらって、でも手を離さない』そんな関係をめざしていきたいです。



【感染症対策研修】

6月19日（木）共同生活援助にて第一回感染症対策研修を実施しました。法人が策定しているBCG（災害時・感染症の蔓延という不足の事態が発生した場合でも、可能な限り業務を継続したり、早期に復旧したりできるように備える計画）の把握、またマニュアルの確認を看護師による講義方式で実施しました。防護服の着脱方法を再認識することもできました。研修で得た知識を業務に反映していきたいと考えております。（生活支援員 岡田 泰祐）



絵：平珠希

【グループホーム見学会】

6月12日に廿日市市佐伯地区民生委員児童委員協議会の32名が見学に来られました。スライドを使って入居者が普段どんな生活をされているのか、またスタッフがどのように関わっているかなどを説明した後、施設内の居室や設備などを見学して頂きました。グループホームでは「とてもキレイにされていますね」と数名の方に声を掛けて頂きとても嬉しかったです。見学会で出た質問と回答を一部ご紹介します。

- ①「入居者は飲酒ができますか」特に健康上の問題がなければ飲酒も喫煙もして頂いて構いません。
- ②「ショートステイ利用時に送迎してもらえますか」現在送迎は行っておりません。
- ③「待機順番の制度はありますか」待機に関して、特に順番を設けてはいません。空きが出た場合、以前こちらのショートステイをご利用していたいただいたことのある方へ、こちらからご連絡させていただく形をとっています。

(生活支援員 香川 剛司)

グループホームゆうわ、フレンドホームゆうわではショートステイご利用の受付を随時行っておりますので、いつでもご相談ください。



【たまねぎの収穫】

6月5日(木)の午後に友和の里で育てていた玉ねぎの収穫を行いました。当日は天候にも恵まれ、土の中から玉ねぎの頭が顔をのぞかせている様子に利用者の皆さんのモチベーションアップ!!職員と一緒に力を合わせて、一つひとつ丁寧に掘り起こしました。収穫した玉ねぎは保護者むけに販売したり、厨房で調理していただきます。これからも畑での活動を通して自然とふれあいながら季節を感じられる活動を大切にしていきたいと思っています。

(主任生活支援員 山田 憲志)



畑で玉ねぎを収穫する野島さん

トビックス

廿日市市佐伯地域一斉清掃

【いっせいせいそう】

6月1日(日)グループホーム入居者の皆さんと職員で岩組地区の町内一斉清掃に参加しました。約一時間、敷地内の草抜きなどの清掃を行いました。所々生えていた草がなくなりスッキリです。みんなで頑張りました。作業終了後、岩組集会所へ点呼に4名で参加し、お茶を頂きました。暑い日だったのですが地域の方も大勢参加しておられ、地域に暮らすみんなで一斉に清掃作業して気持ちのいい汗をかくことが出来ました。これからも、地域の景観を損なわぬよう、定期的な清掃活動に取り組みたいと思います。(生活支援員 岡田 泰祐)



岩組会館(集会所)にて

通所部土曜開所日

【モルック体験】

6月21日(土)の開所日はモルックを行いました。モルックは気軽に楽しめるルールのわかりやすいスポーツです。利用者の皆さんが思い思いにモルックのスティックを投げます。その後ピンが倒れ、倒れるたびに歓声や拍手があがり、木製のモルックの心地よい音が響きわたりました。音の余韻を楽しめる利用者もおられました。今回のモルックを通して、身体を動かす楽しさや仲間と一緒にレクリエーションを楽しむ喜びを感じていただけたようです。次回は『フライングディスク』を行う予定となっております。多数の方の参加をお待ちしております。

(生活支援員 井場 孝行)



入所部レクリエーション

【ベビーカーカステラづくり】

今月のレクリエーションは、タコ焼き器を使ってベビーカーカステラ作りに挑戦しました。丸く仕上げるのに苦戦する場面もありましたが、みんなで協力して、無事に美味しく焼き上げることが出来ました。飲み物はバスで近くの自動販売機まで行き、それぞれ好きなものを選びました。午後には、焼きたてのベビーカーカステラに生クリームやトッピングをのせて、さらにおいしくアレンジ。作っている時の顔もさることながら、食べている時の顔は作るとき以上に満足そうな笑顔があふれました。楽しい時間を過ごしながら、みんなで味わう手作りのお菓子は格別でした!

(生活支援員 田代 師世江)



7

ゆうわ さとぎょうじよてい 友和の里行事予定

- 7/4金 はつかいち福祉ネット全大会
ステージ発表 (GHFH)
アート活動 (通所)
- 7/7月 ひがえ りょうこう はん
日帰り旅行1班 (入所)
- 7/8火 たの かい
お楽しみ会 (入所)
- 7/9水 たいじゅうそくてい
体重測定 (入所)
- 7/10木 こうちんしはらいび
工賃支払日 (通所 / 入所)
- 7/11金 ゆうしょくかい
夕食会 (GHFH)
- 7/18金 かつどう
アート活動 (入所)
- 7/19土 どうようびかいしよび
土曜日開所日 (通所・入所)
- 7/22火 ゆうしょくかい
夕食会 (入所)

水曜日
移動スーパー

		1	2	3	4	5
					4 ステージ発表 4 アート	
6	7	8	9	10	11	12
	7 ぎょうじしよく	8		10	10 こうちん	
		8 おたのしみかい				
	7 ひがえり旅行	9 たいじゅうそくてい			11 ゆうしょくかい	
13	14	15	16	17	18	19
					18 アート	19 かいしよび
						19 かいしよび
20	21	22	23	24	25	26
		22 ゆうしょくかい		24		
		22				
27	28	29	30	31		
	27 ほうもんびよう					

GHFH グループホーム にゅうしょ (入所) つうしょ (通所)

7月から利用者みなさんが楽しみにしている行事がカレンダーにかわります！水曜日移動スーパーの日と、通所部のアーチェリー活動の日と、アート活動の日などです。チェックお願いします。



アーチェリー

新しい職員さん



やましなひさみ
山品久美さん

給食調理部に入职された山品さん。ご主人の実家のある友田に転居され、休みの日は畑仕事をしているそうです。「食べることに興味があるので、長く仕事ができたらいいと思います」とコメントをいただきました。

今月のおまけフォト
雨の日の、ゲートが
の待つ、ベントが
一団。日除きの班あ
除け。日中、棟の雨
食後は7月4日の過
ます。福祉ネット全
テッ社。発表の全大
練習！を昼休憩にし
ます！

今月のクイズ

もひとつおまけ



6/30に撮影した写真です。
友和の里にスモモの実がなっています～
早い者勝ち！
さて、どこにあるでしょう。
ヒントはリンゴの木の近くです。

